



医療法人社団 悠翔会
Yushoukai Medical Corporation

2022年7月7日

医療法人社団悠翔会

〒105-0004

東京都港区新橋 5-14-10 新橋スクエアビル 7階

Tel : 03-3289-0606 Fax : 03-3289-0607

医療法人社団悠翔会、離島での在宅医療の提供を開始 ～鹿児島県・与論町にて閉院された歴史ある離島診療所の運営を再開～

首都圏で最大規模の在宅医療を提供する医療法人社団悠翔会（本部：東京都港区、理事長：佐々木淳）は、2022年7月1日、鹿児島県・与論島のパナウル診療所（前院長・古川誠二氏）を承継開業いたしました。



古川医師は1991年、与論島にパナウル診療所を開設。地域住民の健康を守るために、30年間、医師一人であらゆるニーズに対応されてきました。離島医療を志す若い医師たちを年に40～50人受け入れる、離島医療研修のメッカでもありました。

2021年、古川医師はご自身の年齢や、故郷の徳島に帰られることを理由に、診療所を閉院されます。パナウル診療所は外来診療で島民の病気やけがに対応していただけでなく、島で在宅医療を行う唯一の在宅療養支援診療所でもありました。診療所がなくなったことで在宅医療の提供は途絶え、住民が最期まで住み慣れた自宅で暮らし続けることは困難になったのです。

古川医師は閉院後も週に1回、与論徳洲会病院の外来で診療をされていましたが、診療所再開を求める島民の声は徐々に大きくなっていきました。診療所の再開を望んだのは、町も同様でした。地域包括ケアシステムを推進するうえで、在宅医療やプライマリケアの提供体制に課題を感じていたのです。

そのような中、悠翔会は古川医師から、診療所再開に向けてのお声がけをいただきました。

わたしたちはこれまで、「首都圏を、たとえ治らない病気や障害があっても、人生の最終段階が近くても、最期まで安心して生活が継続できる地域にする」——そんなビジョンを掲げて、15年間在宅医療に取り組んできました。

しかし、わたしたちが培ってきた「チーム在宅医療」の力は、むしろ医師が不足している地域でこそ発揮できるのではないか。ある程度、安定した財務基盤を持っているからこそ、人口の少ない地域で、医療機関運営の持続可能性を高めるための試行錯誤ができるのではないか。何より「ゼロを1にする」というインパクトは、すでに複数の選択肢の存在する地域に $n+1$ 番目のクリニックを作るよりもずっと大きいのではないか。そのように考えました。

法人内では早速、この島での診療に強い情熱を抱く医師が、院長として名乗り出てくれました。また、閉院後に診療所の建物を所有していた社会福祉法人ハレルヤ福祉会や与論町が多方面にわたりご協力くださったこともあり、この度、パナウル診療所を在宅療養支援診療所として再開することができました。

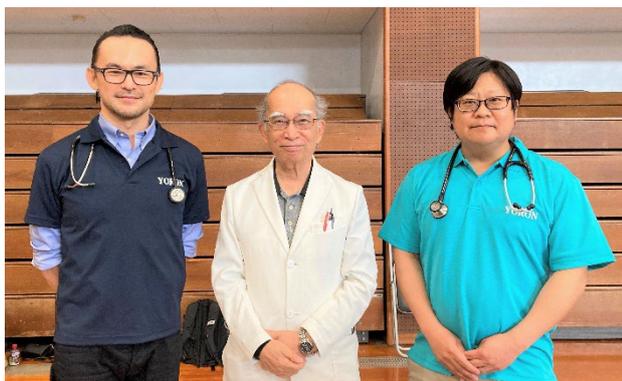
島には7月1日の診療所開設に合わせて、「つむぎ訪問看護ステーション」と、与論徳洲会病院の運営する「訪問看護ステーションゆんぬ」の2つも立ち上がりました。在宅医療が再び息を吹き返したことで患者さんの生活を24時間支える体制が整い、与論島が、最期まで住み慣れた自宅で安心して暮らし続けられる地域になるための基盤は整いつつあります。

都市部の在宅医療にも、もちろんまだまだ課題はあります。それらの課題解決には、これからも全力で取り組みつつ、“住み慣れた地域での生活の継続”という選択肢がない離島やへき地にも、しっかりと在宅医療を届けていきたいと思えます。

【クリニックの概要】

■ 鹿児島県大島郡／パナウル診療所

鹿児島大学出身で、今年3月まで「悠翔会在宅クリニック柏」の院長を務めた小林真介が、新院長に就任します。2人の看護師、3人の医療事務のうち、4人が地元での採用で、うち2人は、かつてパナウル診療所で仕事をしていた看護師と医療事務のスタッフです。診療所の再開により、人口5000人の与論島には、「自宅で最期まで暮らし続ける」という選択肢が生まれました。



左から、悠翔会理事長・診療部長の佐々木淳、古川医師、院長の小林



在宅療養支援診療所

パナウル診療所

診療所の名称である「パナ＝花」「ウル＝珊瑚」をイメージした新しいロゴマーク

7月3日に行った開院式「祝福祭」には、悪天候にもかかわらず、診療所の再開を待ちわびた100人近い島の方々にお集まりいただきました。診療所の建物は、古川医師自らが図面を引いた、ノアの箱舟をイメージさせる木造建築です。町長、町議会議員、大島郡医師会長、与論徳洲会病院院長、そして古川医師からご祝辞をいただき、幸先のよい船出となりました。わたしたちも勉強しながら、個人としても、組織としても、この島と一緒に成長していきたい。そして、地域の課題を一緒に解決するために積極的にお手伝いをさせていただきたいと思います。



町長や町議会議員にもご参列いただきました



ごあいさつする院長の小林

〈小林真介院長より〉

こんにちは。パナウル診療所院長の小林と申します。私自身も鹿児島大学の医学生時代にパナウル診療所で実習したことがあります。当時から皆さんの温かさに触れて、とても印象に残っている島でした。今回、診療所を再開してそこで働くことを、大変光栄に思っております。今後も創設者の古川先生や島の方々からご指導を賜りつつ、「第2世代パナウル診療所」として、外来診療と在宅医療で与論島で暮らす皆さんの安心できる生活を支えていければ幸いです。

住所：〒891-9308 鹿児島県大島郡与論町大字那間 2747-1

TEL：0997-84-3330

FAX：0997-84-3331

訪問エリア：与論町

診療開始：2022年7月1日

URL：

<http://www.yushoukai.jp/clinic/panauru/>



パナウル診療所のスタッフ。前列中央が院長の小林。壁には古川医師が作詞した『たましいの島』が掲げられています

【医療法人社団悠翔会 (<http://www.yushoukai.jp/>) について】

医療法人社団悠翔会は 2006 年に東京・千代田区に最初の在宅医療専門クリニックを開設。以来、「患者の価値観を中心とした医療」を提唱し、現在は、首都圏に 18 拠点、愛知県に 1 拠点、鹿児島県に 1 拠点、沖縄県に 1 拠点の 21 クリニックを展開、102 人の医師が常時約 6,700 人の患者さんに 24 時間体制の在宅総合診療を提供しています。精神科や皮膚科などほぼ全診療科を網羅。認知症ケア、緩和ケア、リハビリ、歯科・口腔ケア、栄養ケアを含む包括的な支援体制を構築し、これまでに 3 万人を超える患者さんの人生に伴走してきました。去年は約 1700 人の患者さんの人生の最期に臨席、うち約 1200 人の方をご自宅でお看取りしています。

「チーム在宅医療」の理想を追求し、超高齢化した首都圏、ならびに医療資源の不足する地域で暮らす人々を支えます。最期まで自宅で過ごしたいと願うすべての人の思いに応えるため、介護事業者の方々とも協力しながら、「安心できる生活」「納得できる人生」の実現に向けて全力でサポートします。

■ 本件に関するお問い合わせ先

医療法人社団悠翔会 広報担当

メール：pr@yushoukai.jp